

Ⅲ 研究のまとめ

成果

- ・各学年の発達段階に応じた話型を提示することで、見通しをもって、児童も教員も伝え合い、学び合う学習を進めることができた。
- ・伝え合いの活動を重ねることで、伝えることに抵抗感を感じず、考えを伝えることのできる児童が増えた。
- ・ペアやグループでの伝え合う活動の充実を図ったことで、自分の考えを伝えることが大切だと考える児童が増えた。
- ・日常生活の中で、理由を明らかにして自分の考えを述べる児童が増えた。

課題

- ・伝え合う活動を学習の中に多く取り入れたことで、相手に伝えたり、相手の話を聞いたりする時の語彙を増やすことができた。しかし、語彙力には個人差がかなりある。そのため、相手に伝わるように言葉を選んで表現することに課題がある。語彙力を付ける指導法のさらなる工夫・改善を行うとともに、家庭とも連携する必要がある。
- ・自分の考えを伝えることや、相手の話を聞くことの大切さを感じつつも、考えを伝えることを「好き」と感じる児童は増えていない。自分の考えが持てる、伝え方がわかる、伝えやすい雰囲気を作るなどの、伝えることに自信を持てる指導を工夫していくことが必要である。
- ・子供たちが主体的に伝え合い、学び合う力をつけようと授業作りをすることができた。しかし、話型によらない独自の考え方などの個の学びの状態に応じた適切な働きかけには課題がある。個に応じた学びができるようにするために、個の状態を評価し、対応できる力を教員が身に付けていく必要がある。